⑩ 日本国特許庁(JP) (Ng

①実用新案出顧公開

⑫ 公開実用新案公報 (U)

昭61-4578

@Int\_Cl\_4

識別記号

庁内整理番号

母公開 昭和61年(1986)1月11日

A 01 K 91/04 97/02 D-7416-2B 7416-2B

審査請求 有

(全 頁)

砂考案の名称

投げ釣用かご付き天秤

②実 顧 昭59-90068

❷出 願 昭59(1984)6月16日

砂考 案 者 山 根

祥 克

広島市西区高須2丁目9番23号

⑪出 願 人 山 根 祥 克

広島市西区高須2丁目9番23号

## 明 細 轡

- 1. 考案の名称 投げ釣用かど付き天秤
  - 2. 実用新案登録請求の範囲 かど付きおもりに通し孔を設け、パイプを貫通 させたことを特徴とする投げ釣用天秤。
  - 3. 考案の詳細な説明 この考案は、投げ的用天秤の改良に、関するものである。従来投げ的用天秤は、鋼鉄線に重り をつけて使用している。広い海で魚を釣るとい う事は、なかなか思うように釣れない。

魚がいる場所や、釣れるポイントをさがし当て るとしても、なかなかよいポイントが解らない 事が多い。

よく釣れる場所はないかと、種々とポイントを さがし回り、危険をおかしてまで、よい場所に 行く人も多い。

やたら餌を付けて投げ込めば、魚が食い付くと いうものでもない。

たとえ釣れたとしても、単発である事が多い。

又、深い所や遠方に投入した場合、竿をあげて 見たら食い付いていたという事があり、魚のあ たりを見のがす事がある。

他の釣り方に比べて、釣りの農棚味が小さいことが多いし、興味も薄れやすい。

との考案は、次の方法によって、上記の欠点を 解決出来る投げ釣用天秤である。

との考案を図面にもとづいて説明すると、従来の天秤第3図は、鋼鉄線におもりを貫通させたり、又、おもりを付けたりしてある。

この考察の天秤は、選当な細いパイプ1に、よせ餌かごとおもりを一体にしたもので、当かど付きおもりの中心に、パイプの直経よりも少し大きめの通し孔5をあけ、その中にパイプ1を通し、パイプ1に沿ってかど付おもりが、スライドして動くようにした天秤である。

パイプ1は適当な弾力を備えた材質のパイプがよく、根掛かり等でも、折れにくく、引き寄せやすい。

当かで付おもりは、上部が蓋2で、かど3にま

き餌を入れる。おもり4は、かどに一体として 付けたものである。

よせ餌かどには、エサが適当に出る穴6をあけてあり、又、蓋2でエサの出具合を講整出来るようにしたものである。

本天秤のかど付おもりは水庄やおもりの重さで 自在にパイプに沿ってスライドして、動くよう にしたものである。

てのかで付おもりにまき餌を入れ、竿で投げた時、当かで付おもりは、突起部分 7 で止まり、海中に投入される。突起部分 8 は、かで付おもりがパイプ 1 より飛び出ないようにした突起部分である。

魚は餌の臭いによって、集まる習性がある。 まき餌は、水流によって少しずつかごより出て 水中で漂よい、まき餌の臭いと餌につられて、 とのかご付おもりの附近に魚が集り、針のつい た釣餌に、おのずと食いつく仕掛けである。 従来の天秤での投げ釣では、広い海の中で釣針 だけの小さな餌を頼りに、魚を釣るよりもおの ずと効果が大きい。

釣針13に食い付いた魚は、逃げようとする瞬間、ハリス10は引っ張られパイプ1の中を貫通した道糸9が、直接引っ張られる。

従来の天秤のように、おもりの荷重もなく、一寸の魚のあたりでも、竿先に直接解りやすい。 小さな引き込みでも、竿先が大きく曲りあたり がよく解る。

竿を持ち上げると同時に、リールを巻くと、サルカン11が、パイプ端部12で止まり、手元まで引き寄せることが出来る天秤である。

又、まき餌が無い時は、そのままでも投げおも りとして使用出来る。

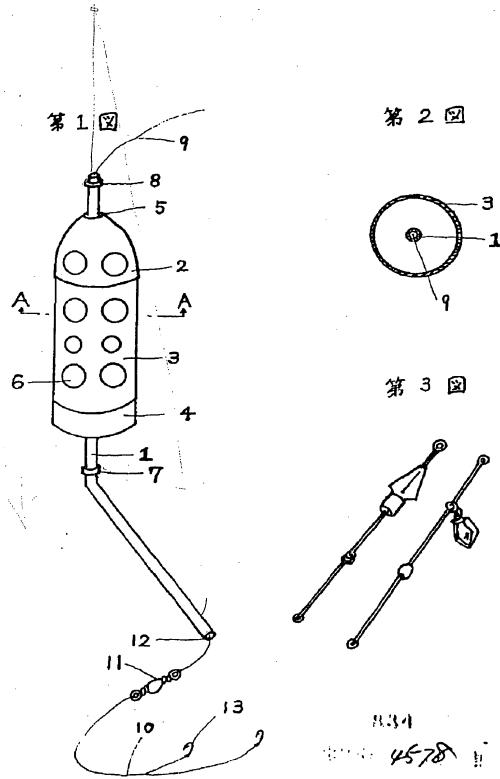
他には舟釣等にも利用できる。

従来の天秤での投げ的では、魚を築めて釣るという事は難しかったが、このかど付おもりの天秤を使用すると、遠方でも深い所でも、思い思いの場所に魚を集めて、釣ることが出来る特徴を持った投げ釣用天秤である。

4 図面の簡単な説明

第1図は本考案の正面図、第2図はA-A断面図、第3図は従来の投げ釣用天秤の斜視図である。

実用新案登錄出願人 山 根 祥 克



実用新案登録出願人 山 根 群克